

都心の未来デザインブック

～豊田市都心地区空間デザイン基本計画～

DESIGN BOOK FOR
THE FUTURE OF CITY CENTER

1 部	プラン編	PLAN	01
2 部	デザイン編	DESIGN	36
	「つくる」：とよた都心の未来のデザイン			
3 部	プロセス編	PROCESS	104
	「つかう」：とよた都心の未来のマネジメント			





はじめに

豊田市は、平成28年3月に「都心環境計画」を策定・公表しました。同計画においては、都心におけるにぎわい創出を行うことで、選ばれる都心を目指し、公共空間の活用「つかう」と公共空間の再整備「つくる」を両輪で進めることとしています。

都心におけるにぎわい創出には、その公共空間等における統一したデザインと使い方の検討がなされた居心地の良い空間を作り上げていくために、市民とともに空間デザインを考えていく必要があります。

この空間デザインにおいては、段階的な空間整備を基本とし、これまで、まちの使い方やあり方に関し、市民ワークショップ等を通じて、市民のみなさんと意識共有を図りながら、にぎわいのある都心の実現に向けた検討を進めてきました。

本冊子「都心の未来デザインブック（豊田市都心地区空間デザイン基本計画）」は、豊田の“都心の未来のあるべき姿”を描いたもので、今後も、市民のみなさん等と更なる検討を行い、豊田の都心をつくっていきたいと思います。

豊田市

目次

第1章 とよたの都心の未来

1-1	ステートメント / 理念	03
1-2	豊田市都心地区空間デザイン基本計画で思い描く未来	07
	午後 2 時頃 東口まちなか広場の祝祭風景	
	午後 2 時頃 東口まちなか広場の日常風景	
	正午頃 西口デッキ広場の風景	
	午後 5 時頃 シティプラザの風景	
	午後 7 時頃 停車場線の休日の風景	

第2章 「カスタマイズとよた!」でつくる 新しいとよたの都心

2-1	市民参加によるデザイン決定プロセス	15
2-2	「カスタマイズとよた!」の8つのポイント	17

第3章 新しいとよたの都心デザイン・マネジメント

3-1	矢作口と毘森口（やはぎぐちとひもりぐち）	23
3-2	広場のデザインイメージ	25
3-3	アーバンファニチャーのデザインイメージ	27
3-4	まちなかのユニバーサルデザイン	29
3-5	都心のマネジメントイメージ	31

第4章 ロードマップ

4-1	今後のスケジュールと段階整備	33
-----	----------------	----

豊田市都心地区空間デザイン基本計画が伝えたいこと

「豊田市都心地区空間デザイン基本計画」には、今後の計画のあらゆる段階で、市域全体のための都心をつくるうえでの「道筋」となる「まちのイメージ」を描き記しています。本冊子は専門家だけではなく、市民のみなさんがとよたの未来を考えるきっかけとなるよう活用できればと考えています。

市民と行政と専門家で作るまち

豊田市で行われている、市民を主体としたまちづくりの進め方は全国的に見てもとても先進的なモデルです。H28年度のワークショップや推進会議などを通して、市民と行政と専門家の相互の信頼関係が出来上がりつつあるように感じています。コンセプトやデザインとそれを実現する仕組みについてこのデザインブックでまとめていますが、これからは実証実験を繰り返し、具体的に実現していかなくてはなりません。まさに実践していくことが重要なので、みなさんの今後の展開に期待しています。



小林 正美 / 明治大学副学長
豊田市都心地区空間デザインアドバイザー



星 卓志 / 工学院大学教授
豊田市都心地区空間デザインアドバイザー

みんなの居場所をつくる

まちなかの公共空間が、市民が「自分の居場所」と感じ、親しみをもって豊かな時間を過ごす場所となっていることは、都市の魅力そのものです。このことは、単にそれらを美しく機能的にデザインしただけでは実現できません。年月をかけて使い込み、多くの人びとの経験や記憶が蓄積され育っていくものだと思います。市民、事業者、行政が、それぞれの立場で、人びとの豊かな活動が展開されるよう空間を育てる努力を続けることが重要です。

ひとつの駅前へ、そして、ひとつの街へ

街には、駅、道路、お店やビル、バス停など、様々な場所やモノがあふれています。それらは全部バラバラで、それぞれにルールだらけ。それでは魅力的な街にはなりません。このデザインブックが目指しているのは、空間や仕組みの様々な境界を乗り越え、ひとつの駅前をつくるということです。そのためには、具体的な活動を通じた対話をみんなでい続けることが大切です。そして、その活動が駅前を超えて、街全体へ広がり、毘森や矢作川の豊かな自然をも巻き込んでいくことを願っています。

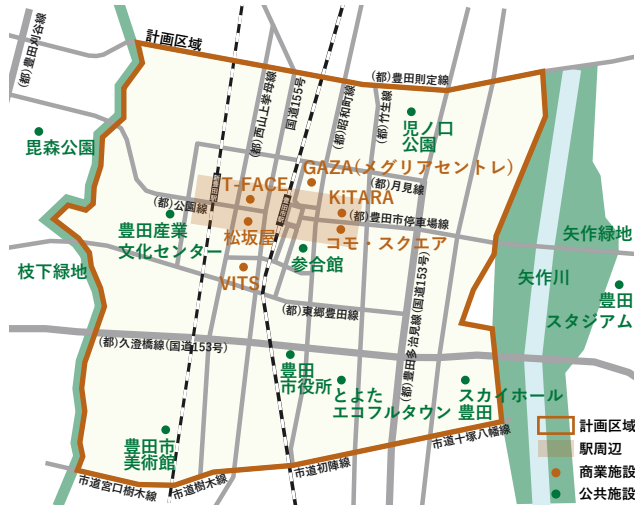


星野 裕司 / 熊本大学大学院准教授
豊田市都心地区空間デザインアドバイザー

今後のまちの「活用」と「再整備」に役立つ計画案を示します。

豊田市都心地区空間デザイン基本計画は、未来のまちの姿を決定する、大切な'骨格'となります。
豊田市駅周辺のデザインを統一したあとは、都心全体のデザインについて考えていきます。

■ 位置図



■ 計画案の位置づけ

選ばれる都心を目指す

- ① まちを使う・体験する にぎわい交流拠点の創出
- ② まちに行く・回遊する 交通拠点の形成
- ③ まちを知る・発信する 情報拠点の創出

step

都心に必要な施策を 総合的に示した計画が必要

1

都心環境ビジョン

… 駅周辺の基本レイアウト
H27年1月策定・公表



step

2

都心環境計画

… 都心地区全体の基本計画
(つかう・つくるの施策)[行政計画]
H28年3月策定・公表

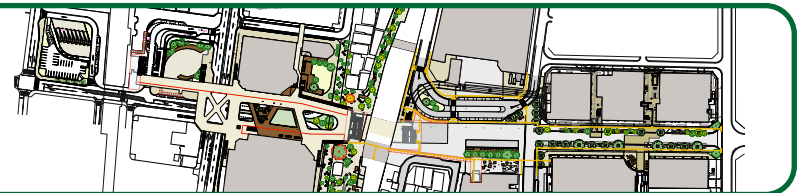


step

3

豊田市都心地区 空間デザイン基本計画

… 駅周辺のデザインの統一化



中心市街地活性化基本計画

ソフト事業(民間主体)

- ・テナントミックスほか

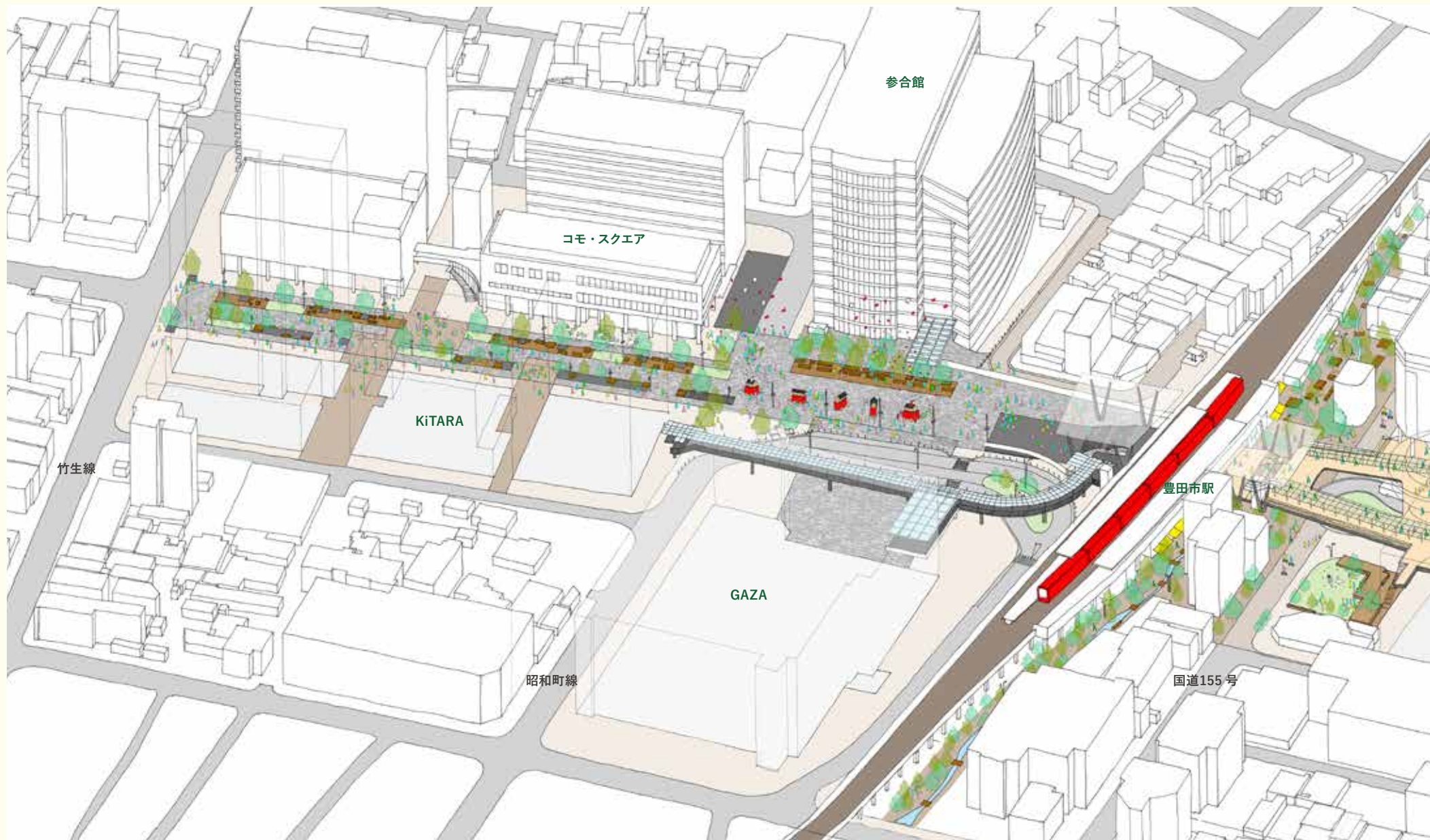
都心のにぎわいを支える都市基盤の整備

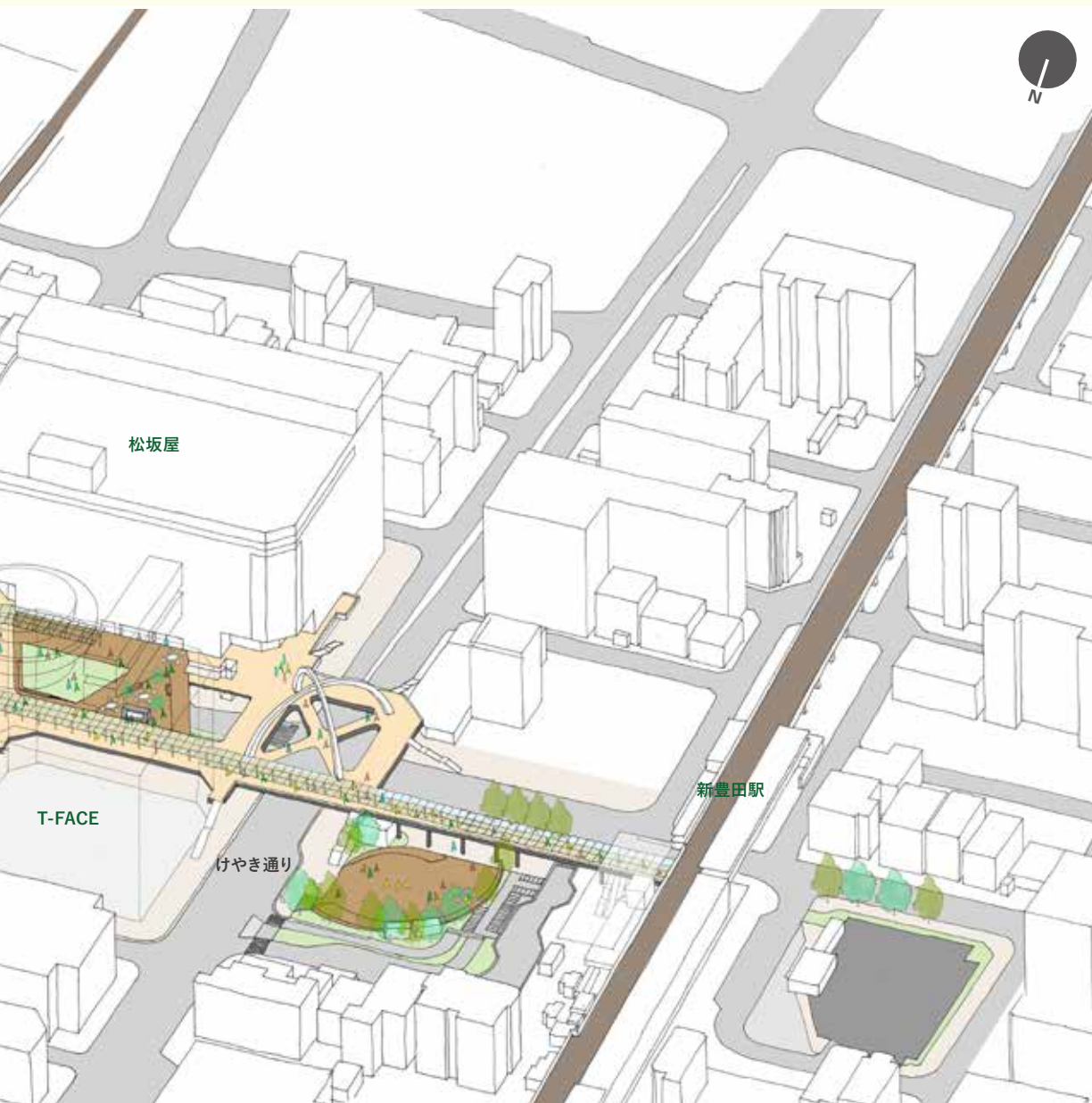
ハード事業(行政主体)

- ・将来像の実現に向けた計画づくり
- ・都市基盤の再整備

「大規模なハード整備」と「公共空間の本格活用」の連携

中心市街地の活性化





CHAPTER 1
FUTURE OF TOYOTA'S CITY CENTER

第1章 とよたの都心の未来

「とよたの都心」は、豊田市駅周辺を中心に魅力ある商業機能、公共空間機能、交通機能の確保に向け、駅舎やデッキ、まちなか広場などを重点的に施策を展開していきます。

本冊子、豊田市都心地区空間デザイン基本計画では、この都心の範囲を対象とした、「とよたの未来」の日常、また挙母(ころも)祭りやおいでんまつりなど、非日常のあるべき姿をつくるデザインや、まちの使い方をご紹介します。

豊田市都心地区空間デザイン 基本計画で思い描く未来

これから新しくなる都心地区では、様々な活動やにぎわいがあちこちで生まれ、にぎわいの風景が連続する。そんな豊田のまちなか空間を目指しています。

午後 2 時頃 東口まちなか広場の祝祭風景

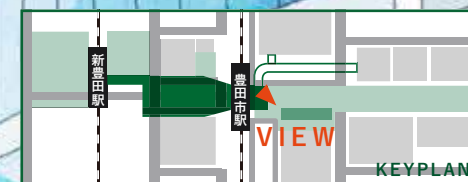
挙母祭りの日、駅前には一列に山車が並び、たくさんの観客で埋め尽くされます。

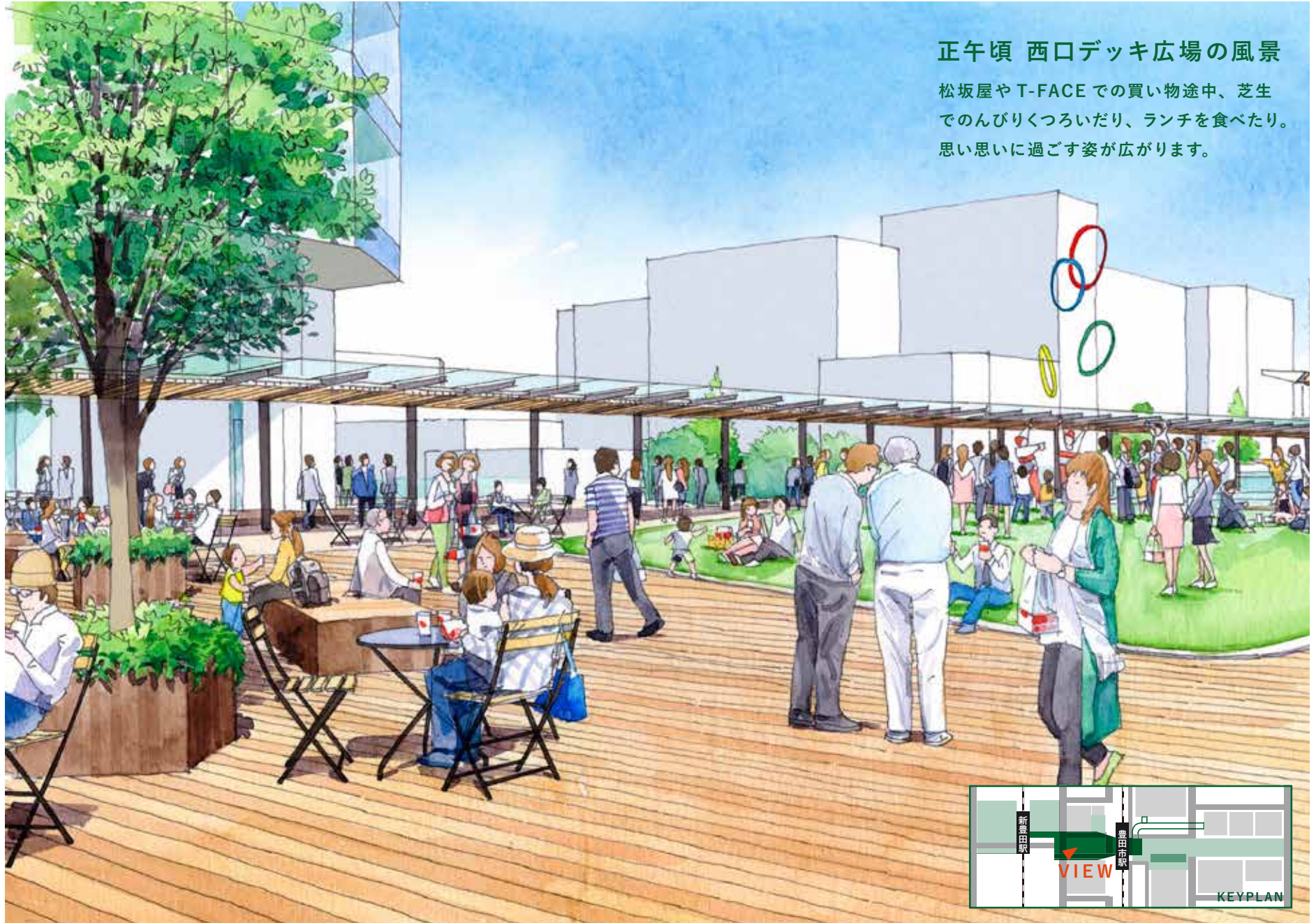


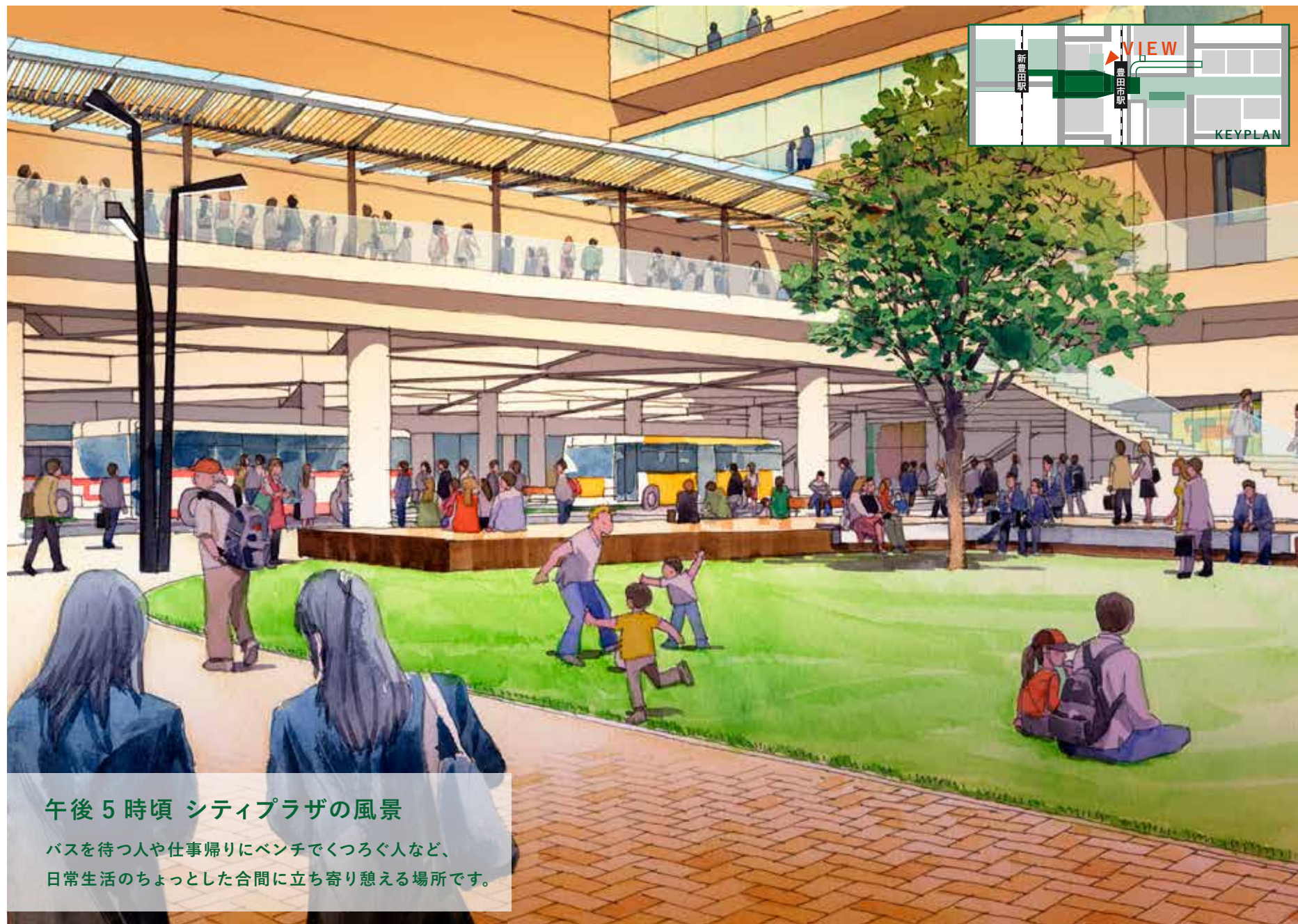


午後2時頃 東口まちなか広場の日常風景

水盤では子どもたちが噴水にふれたり、水に親しみ遊びます。
そばの木陰では、我が子を見守ったり、ママ友とおしゃべりしたり。
親子が集まり、楽しむ様子が見られます。

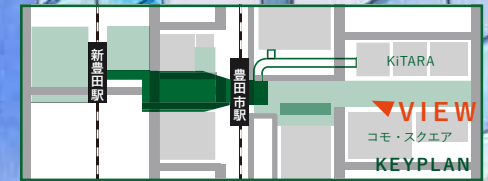






午後7時頃 停車場線の休日の風景

たとえば、豊田スタジアムでスポーツ観戦の前後に、ベンチでビールを飲んだり、友達と語り合ったり。駅に向かうイベント帰りの人々の熱気ににぎわいがあふれます。



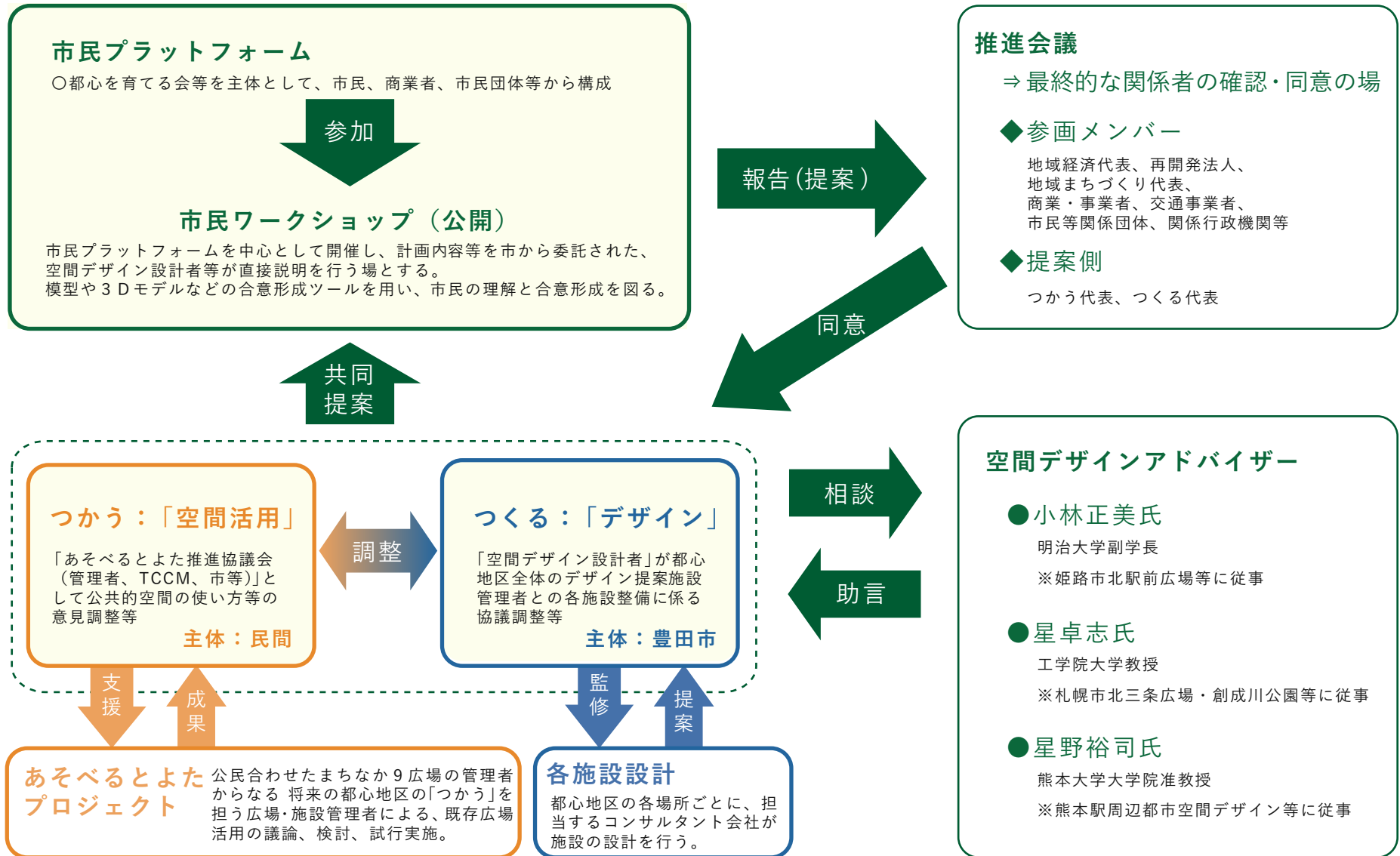
第2章

「カスタマイズとよた!」でつくる 新しいとよたの都心

「カスタマイズとよた!」とは、豊田の都心地区におけるまちづくりの基本方針を表す言葉です。今後、さまざまな取組みが「カスタマイズとよた!」の名の下に進められます。

豊田市駅周辺のまちづくりの新たな進め方と豊田ならではの施策で、「とよたの未来」をつくります。

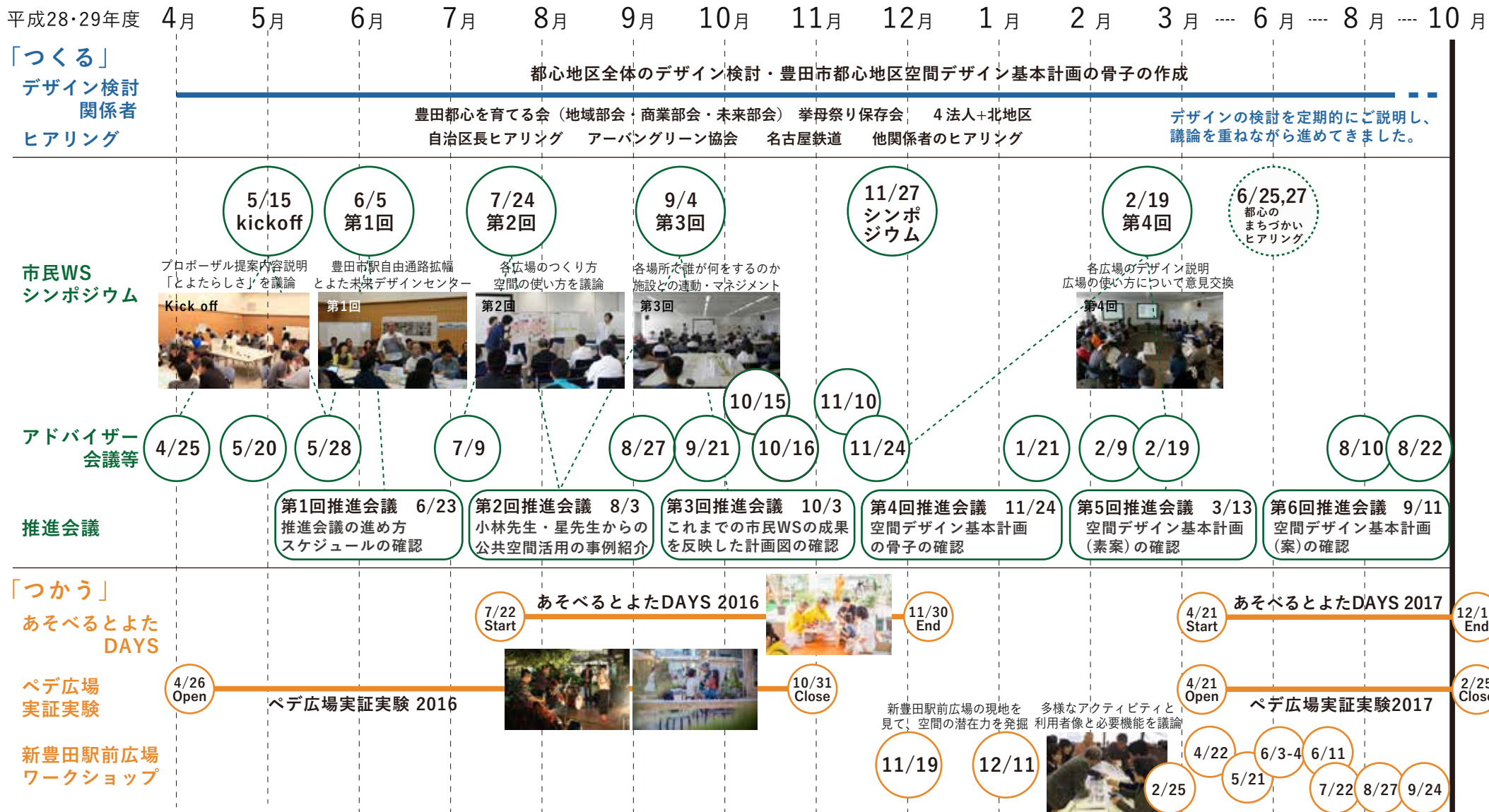
「カスタマイズとよた!」の進め方と各関係



公表

市民を巻き込んだ'まちづくり'を行っています

■豊田市都心地区空間デザイン基本計画は、平成28年度に計5回行われた市民ワークショップや推進会議での議論や、都心関係者との協議・調整、アドバイザーとの会議等、積極的な市民参加によってデザインされました。



「カスタマイズとよた!」の8つのポイント

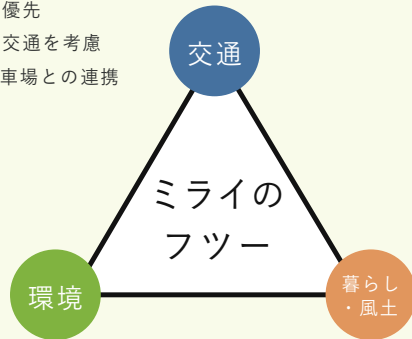
「カスタマイズとよた!」では、この計画を進めるにあたって特に大切にしたいことを「8つのポイント」としてまとめています。

1 未来へつなぐ「とよたらしさ」

今ある豊田を読み解き再編集し空間デザインに取り込むことで、豊田ならではのさまざまな行為が生まれるまちを目指します。

交通 都市と新しい関係を結ぶ未来の交通システム

- 歩行者優先
- 次世代交通を考慮
- 既存駐車場との連携



環境 矢作川がもたらす豊かな環境

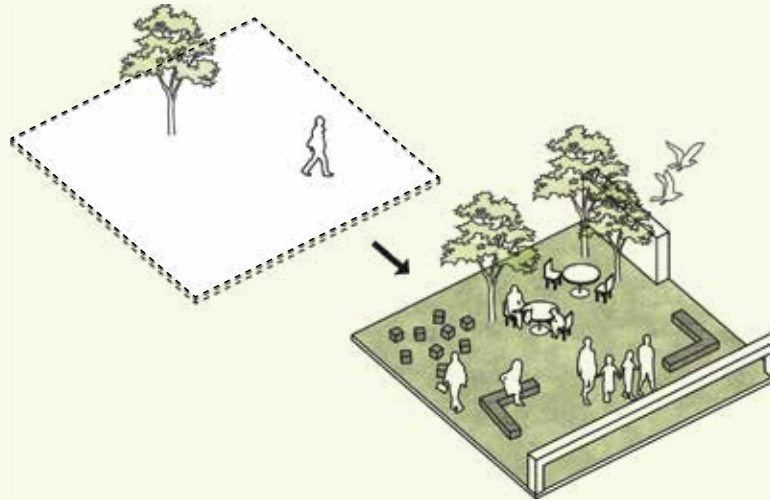
- カスタマイズにより使えるまち
- 挙母用水の利用
- まちをつなぐ水緑

暮らし・風土

- 衣の里から挙母、そして豊田へ人々に根づくカスタマイズ精神
- 挙母祭りへの配慮
 - 地場産木材の利用
 - 地域伝統素材のデザイン活用

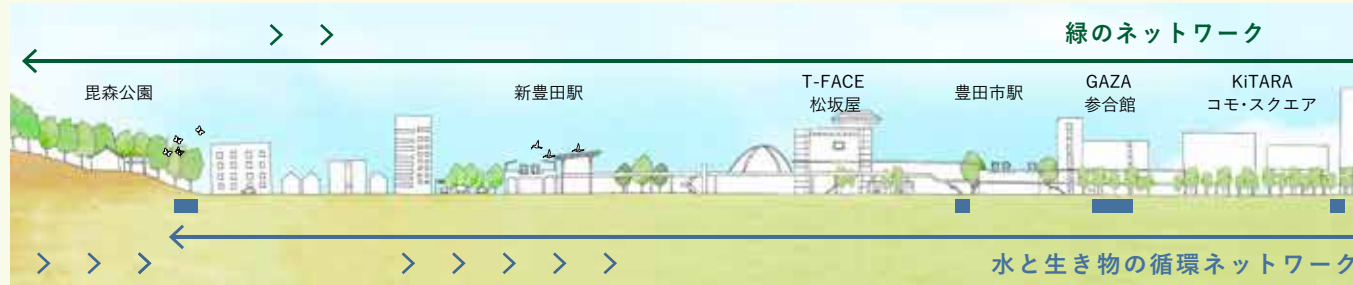
2 市民がつくる「カスタマイズとよた」

豊田人の気質を活かし、市民がカスタマイズできる都市空間を考えます。挙母祭りの山車のように、必要に応じて使い方を変える可動式のアーバンファニチャーを設えます。



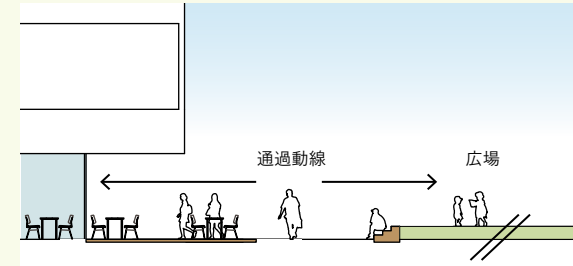
3 分断された東と西を「自然」でつなぐ

街路樹やまちなかの並木を積極的に設け、毘森公園(ひもりこうえん)と矢作川(やはぎがわ)の豊かな緑を連続的につなぐ「緑の軸」をつくります。また、挙母用水を引き込んだ、今ある'せせらぎ用水'を活かした親水空間や、まちなかに新たに大きな水盤を設けることで、駅前に設えたいくつもの水が、人や生き物を豊田の大きな水資源である「矢作川(やはぎがわ)」につなげます。



4 建物を開いて広場と一体的に利用する

参合館やGAZAの前、T-FACEと松坂屋の間など、広場に面した建物に一体的に利用できる仕掛けを設けることで広場と建物、双方の居心地を向上させます。



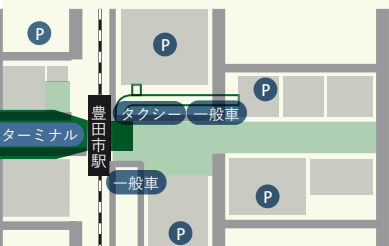
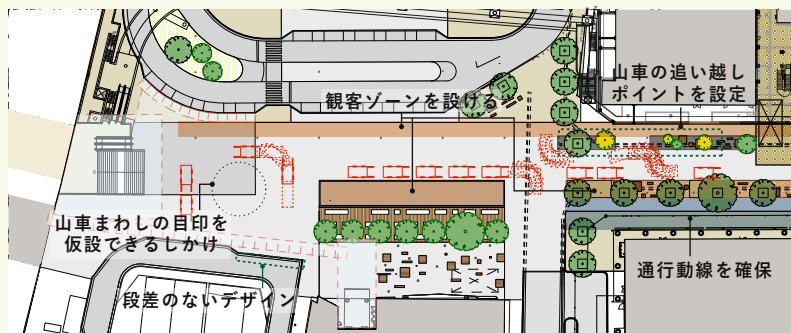
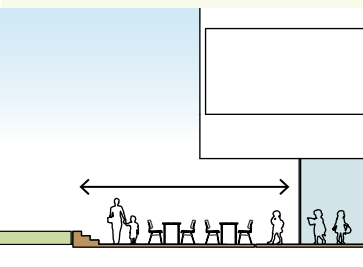
5 豊田らしい新しい交通

バスターミナルは西口へ集約し、東口では南北の乗降場の間に広い歩行者空間を実現します。また、駅近くには次世代交通Ha:moなどのステーションを設け、先進的な交通を取り入れた新しい都心空間を実現します。



6 日常と非日常を両立させるデザイン ～ 挙母祭り～

毎年催される挙母祭りは豊田にとって大切な'非日常'の時間です。祭り時の山車に対応したまちのデザインをつくります。



7 産業・精神・歴史を象徴する素材「木・鉄・石」

まちで使われる素材には、豊田を象徴する木・鉄・石を積極的に利用します。それぞれの素材は各素材に適したまちの各所で利用され、まち全体に'豊田ならでは'の空間を作り出します。

とよたの産業 | 木

ベンチやプランターなど、人が見て触れる場所に使用

地域材



豊田市の面積の約7割は森林です。地域資源である地域材の積極利用を通し、都心計画の素材選定が豊田市の産業につながり、まちとやまをつなげるきっかけをつくります。

とよたの精神 | 鉄

グレーチング、ボラードなど街を構成する要素として使用

自動車産業 鉄・鋳物



豊田市を代表する自動車産業が作り出す'鉄'という素材。鋳鉄をはじめとする鉄をしっかり使うことが、豊田らしさを作り出すと考えます。

とよたの歴史 | 石

土地の記憶として、地を形成する床に使用

花沢石 挙母木綿



挙母ではかつて繊維業が栄え、周辺では花沢石など良質な石も取れていました。このような地域の石材を新しい街を形つくる素材として石を、また挙母木綿はパターンなどに利用します。

8 つかうとつくるの サイクルによる段階整備

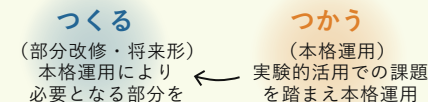
利活用をふまえた高質なデザインを実現するため、「つかう」と「つくる」の両輪で取組を進めています。

「つかう」の取組
▶ あそべるとよたプロジェクト

「つくる」の取組
▶ カスタマイズとよた!



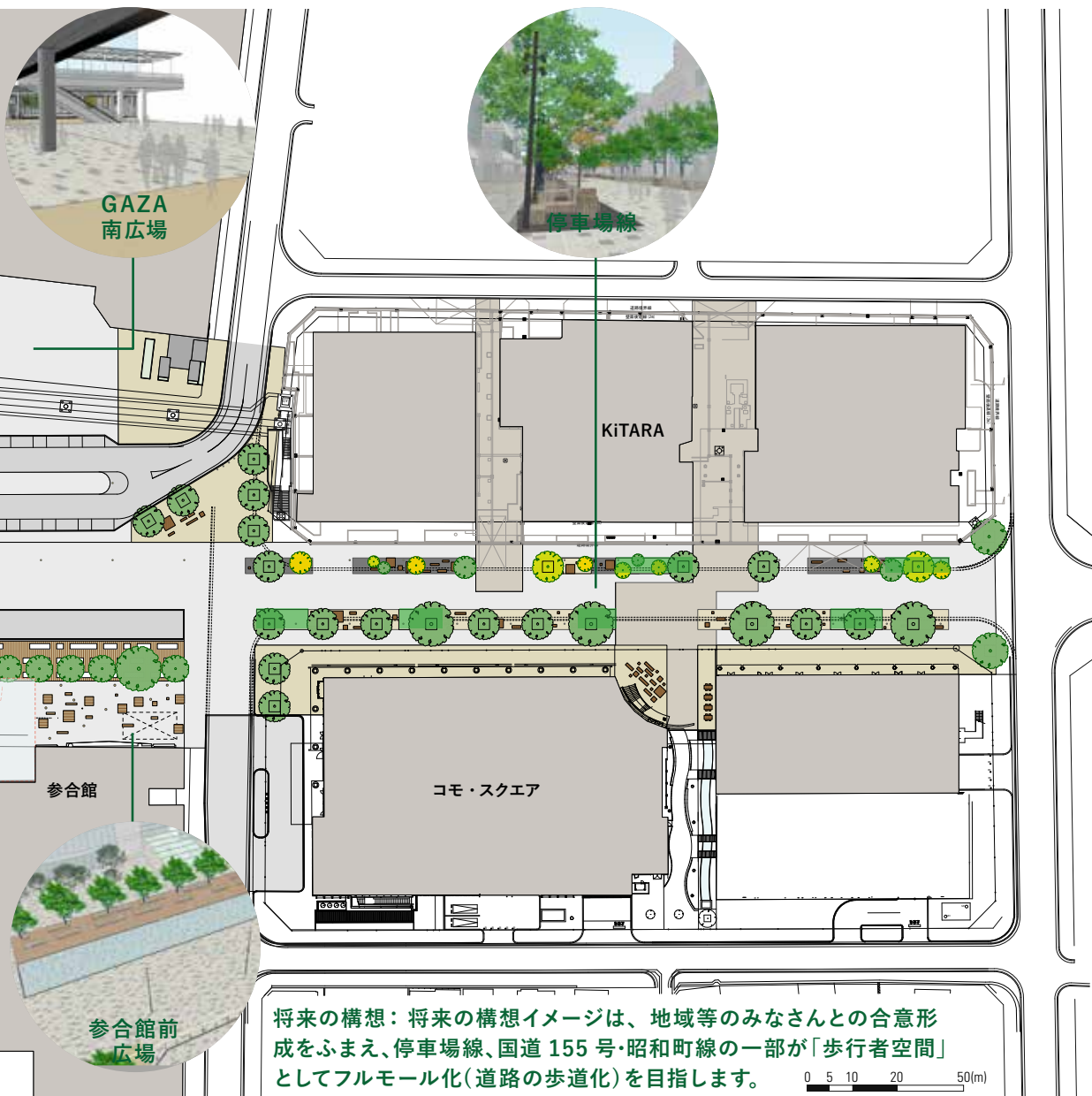
↑「つかう」と「つくる」のサイクル↓



将来の構想



将来、バスターミナル内の発着所は8箇所を計画しています。



将来の構想：将来の構想イメージは、地域等のみなさんとの合意形成をふまえ、停車場線、国道 155 号・昭和町線の一部が「歩行者空間」としてフルモール化(道路の歩道化)を目指します。

0 5 10 20 50(m)

CHAPTER 3
DESIGN OF THE TOYOTA'S NEW CITY CENTER

第 3 章 新しい豊田の都心デザイン

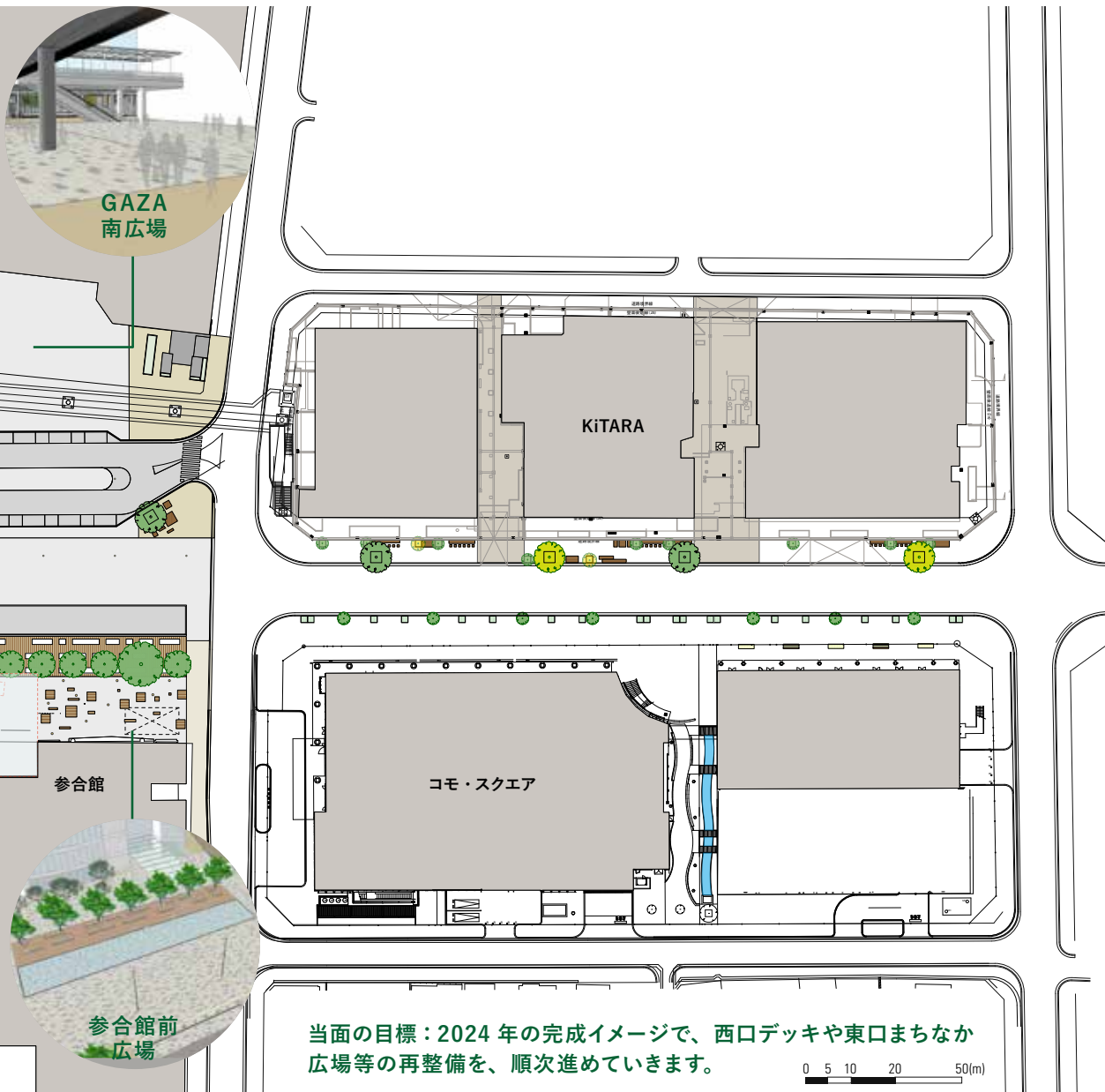
豊田市では、これから時間をかけて都心の再整備を行い、新しい豊田の都心を創っていきます。

そこでは、豊かな時間を過ごすための空間がデザインされ、様々な広場や公共空間が整備されていきます。

当面の目標



当面の間、バスターミナル内の発着所は6箇所となります。
また、市駅側に2箇所の降車場を設置します。



駅東西にできる まちの「2つの顔」

豊田市駅を中心に、その東西で使われ方やあり方に明確な違いがあります。この2つのエリアの特徴を活かし、両者をつなぐことで新しい都心をつくります。

また、市民にとって都心が身近な存在となるよう、駅の東西の出口の名称を、互いの先にあり、豊田市の豊かな自然を象徴する「矢作川(やはぎがわ)」「毘森公園(ひもりこうえん)」から名前をとって、「矢作口(やはぎぐち)」「毘森口(ひもりぐち)」と位置付けます。



利用 まちを「利用」するための場づくり

毘森口は、豊田市の中でも日常的に賑わいが集中する場所です。まちと人をつなぐため、公共空間に人々が休める場所や商業者が使える場所をたくさん用意します。来街者、商業者双方にとって使い勝手の良い場所を設けることで多くの人に利用してもらえることができる街を目指します。



1 日常の 使われ方

参加 まちに「参加」するための場づくり

矢作口は、スタジアムや図書館、映画館など文化的な施設が多く存在していますが、多くの人々がそれらに車で訪れ、回遊しないため街や通りに賑わいがありません。そこで、この通り自体に目的性を持たせるため、誰でも気軽にイベントなど活動ができる場を目指します。周辺の文化施設と市民活動を連携させることで、多くの人が「参加」できるまちづくりを目指します。



連鎖 たくさんの「小

毘森口の、まちの片隅 広場を緑豊かな、人の らせませす。そしてその 鎖することで誰もが い を見つけることができ てもらえる都心とな



小さな広場の連



2
空間構成

「小さな広場」とまちの森
にある公共空間や小さな
居場所として生まれ変わ
り、小さな広場がたくさん連
つでもお気に入りの場所
、たくさんの時間を過ご
ることを目指します。

鎖が作る多様な風景

連続 「一体感のある」ストリート型広場空間

矢作口では駅から通りを抜け、豊田大橋からスタジアムまでダイナミックで一体感のある空間にすることで豊田市の象徴的な風景をつくります。強い軸線となる通りに対して、誰もが参加できる活動スペースを連続させることで矢作川のようなおおらかで流れのある空間を目指します。



大きな連続性の中に作られる滞留空間

3
空間のあり方

居心地 「日常」 + 「居心地」の創造

建物、公共空間、緑が一体となって大きな空間を作り出していく毘森口は、そこで時間を過ごす誰もが居心地の良さを感じる場所であることが大切です。そのため、シンプルな空間構成の中に多様な時間の過ごし方ができるよう考え抜かれた場所をデザインしていきます。



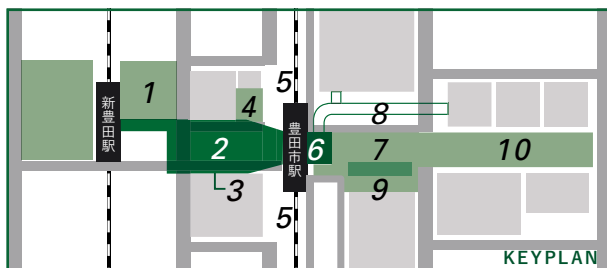
祝祭 「日常」 + 「特別な利用」の獲得

挙母祭りの壮観な山車の引き回し、スタジアムのイベントへ向かう人々の波、おいでんまつりのパレード。矢作口では、豊田市の特別な日が特別であるための祝祭性と日常的に多様な市民活動が展開できる2つのしつらえを満たす空間デザインが求められるため、フレキシブルでオン/オフの使い分けができる、まちの舞台のようなあり方が求められます。



まちなかに生まれる新しい風景

多様な特徴を持った広場やまちの顔など、とよたの都心にはいくつもの新しい風景が生まれます。



1 新豊田駅前東口広場

特徴

ロータリーとペDESTリアンデッキに囲まれた独立性の高い空間

使われ方

担い手と連携し、つかいながらつくりあげ充実させていく広場



2 西口デッキ広場

特徴

建物と連動して使える芝生とデッキ空間

使われ方

時間帯毎の多様な利用者／建物と連動した中規模イベント空間



3 西口バスターミナル

特徴

明るく見通しのきく、利便性の高いバスターミナル

使われ方

周囲の施設や広場と連携したバス待ち空間



4 シティプラザ

特徴

T-FACE内に位置する、使いやすいスケールの空間

使われ方

抜け感のある日常利用／空間を利用した小中規模イベントの開催



5 豊田市駅西口広場

特徴

南北に伸びる水路に寄り添う、様々な樹木による木陰の散歩道

使われ方

ウォーキング、犬の散歩など日常的に気軽に利用できる空間



6 豊田市駅舎

特徴

広場の観客席にもなる大階段と大屋根が作り出す「まちの顔」となる空間

使われ方

東西を繋ぐ自由通路の利用／改修された1F店舗や新設の北口改札利用



7 東口まちなか広場

特徴

矢作口を象徴する、水盤を中心としたおらかな広場空間

使われ方

フラットな水盤の日常利用／大規模イベントの舞台となるハレの空間



8 GAZA南広場

特徴

東口まちなか広場と同じ舗装でつながり、連動した利用が可能な空間

使われ方

日常的な小規模イベントの開催／活用から始める居場所づくり



9 参合館前広場

特徴

参合館と連動した使い方を可能にする屋根や屋外型店舗を併設した空間

使われ方

矢作口の日常の居場所／建物と連動した小規模イベント空間



10 停車場線

特徴

多様なファニチャーが並びKITARAやコモ・スクエアのにぎわいがしみ出す空間

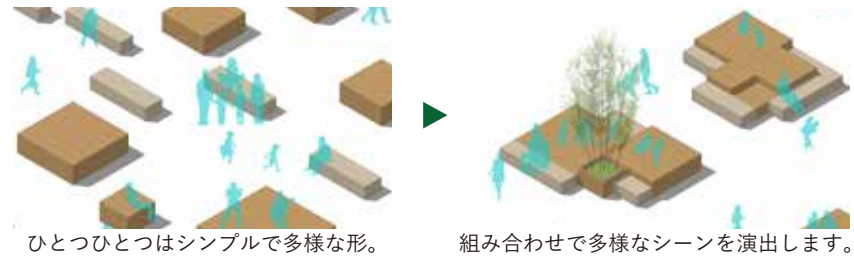
使われ方

日常・イベント共に、大小さまざまな活動を受け止めるストリート

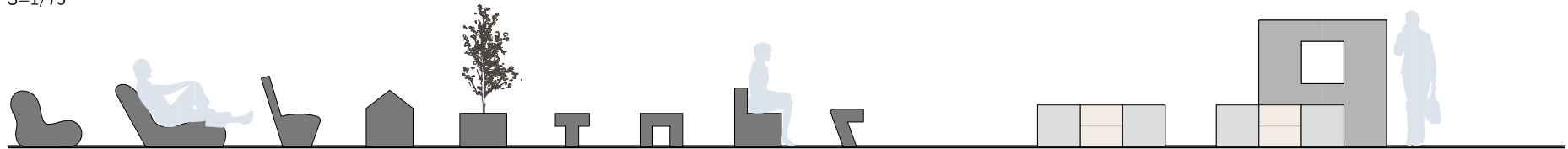


まちを構成するアーバンファニチャー

ベンチや照明、ポラード、サインなどのデザインは、新しい都心を構成する大切な要素です。都心全体に統一感を持たせるためにも、これらベンチなどの街具'アーバンファニチャー'のあり方をデザインします。



S=1/75



ベンチA

タイプ：可動式
スケール：M
素材：木板、スチール
主な設置場所：停車場線



ベンチB

タイプ：可動式
スケール：L
素材：木板、スチール
主な設置場所：停車場線



ベンチC

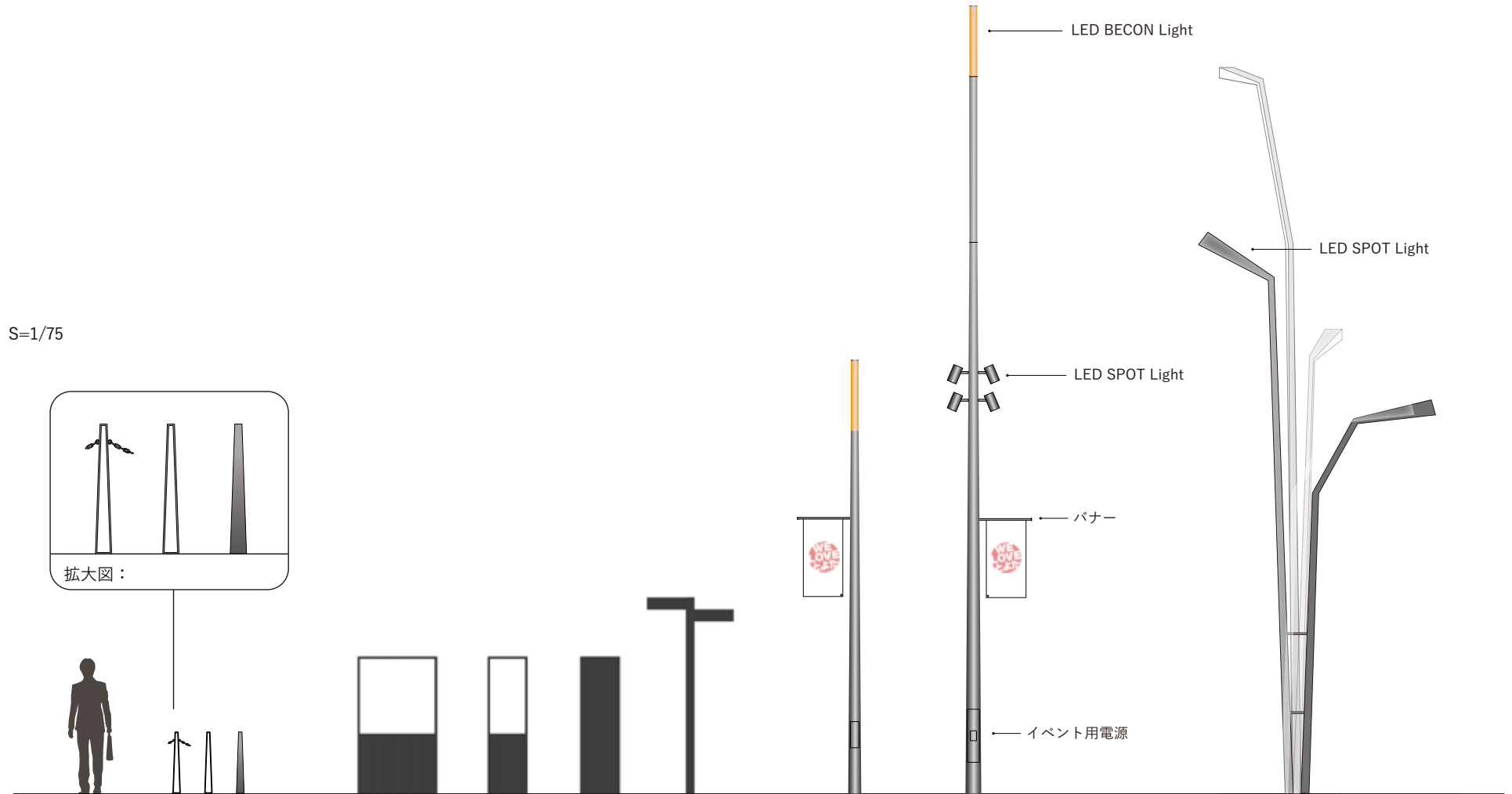
タイプ：固定式
スケール：XL
素材：木板、コンクリート
主な設置場所：東口まちなか広場、新豊田駅前東口広場など



ベンチD

タイプ：可動式
スケール：XL
素材：木板、スチール
主な設置場所：停車場線、東口まちなか広場、参考館前広場など





ポラード

スケール：H80cm
 素材：スチール
 主な設置場所：歩車道境界

● 豊田の文化である製造業の誇りを表す、一枚の板で仕上げた、視線の抜けと軽さのある形

サイン

スケール：H1.75m、2.5m
 素材：スチール
 主な設置場所：都心地区全体

● さまざまなモジュールのサインに統一感をもたせ、豊田のオリジナルのフォントやパターンを使用したデザイン

※ 「豊田市屋外広告物条例」の規制に沿ったものとする
 ※ 豊田市景観計画の「景観形成基準」に適合するものとする

照明 A ~骨格をつくる~

スケール：H5.5m、10m
 素材：スチール
 主な設置場所：都心地区全体

● 東口まちなか広場など、都心地区の軸となる場所に並列。光の連続感をつくる照明。

※ 「豊田市屋外広告物条例」の規制に沿ったものとする
 ※ 豊田市景観計画の「景観形成基準」に適合するものとする

照明 B ~居心地をつくる~

スケール：H3.8m~9m
 素材：スチール
 主な設置場所：都心地区全体

● 滞り場や歩道、車道など場所ごとに適した高さの灯具を束ね、計2~4本のまとまりの灯りを落とす照明。

「使いやすい街」の実現に向けた3つのポイント

誰もが使いやすいまちなかとなるよう、「わかりやすさ」「つかいやすさ」「居心地のよさ」に配慮した空間デザインに心掛けていきます。

- 「わかりやすさ」 来街者にとってわかりやすい、サインや情報案内のデザイン
- 「つかいやすさ」 高齢者や障がい者等すべての人に優しい、上下移動や段差が少ない空間デザイン
- 「居心地のよさ」 来街者、歩行者が手軽に利用できる、ベンチやテーブル等のファニチャーのデザイン

現況 現在の「まちなか」の状況や課題です。

わかりやすさ

<サイン位置>

- ・分かりやすい位置にサインがない
- ・駅以外からの移動には情報が不足している

<サイン表現>

- ・施設への案内矢印がわかりにくい
- ・まちなかのサインや景観が統一されていない

<案内マップ>

- ・他言語表記が少なく外国人はわかりにくい
- ・現在地や目的地への方向がわかりにくい
- ・駅を降りた位置に案内情報がない



わかりにくい施設への誘導サイン位置

つかいやすさ

<歩道の舗装、段差>

- ・ペDESTリアンデッキ上の床素材は、雨天時に滑りやすい
- ・凹凸の箇所あり、車椅子などが通りにくい

<トイレ>

- ・トイレが汚い
- ・多目的トイレが少ない

<エレベーター、エスカレーター位置>

- ・場所がわかりにくい
- ・エレベーターの中は、汚く暗い
- ・エレベーターは、狭くベビーカーでは使いにくい



横断歩道と歩道などの段差

居心地のよさ

<ベンチ、テーブルの設置>

- ・昼食時に腰を掛ける場所がない
- ・信号待ちが長い場所にベンチがない

<公園や人が溜まる滞留空間>

- ・使われていない空間が多い
- ・滞留空間の雰囲気が暗い

<樹木、建物による日陰>

- ・通り沿いに緑(木陰)が少ない
- ・駅前広場に日陰がない

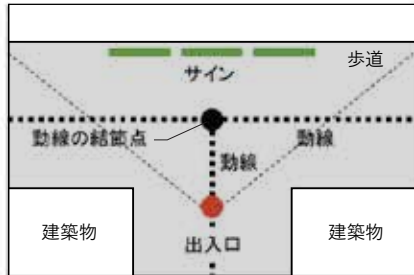


休憩するところはあるが日影がない

将来 現況を改善し、より良いまちなかとなる空間デザインを目指します。

「わかりやすさ」 現状、分かりやすい位置にサインが設置されていないため、動線や交差点からの見え方を考慮し、設置位置を見直します

▶ **サイン整備のあり方、考え方**



施設出入口に対面する位置など、動線の結節点に配置します。



交差点部での案内サインの設置向きは、通りと平行に設置します



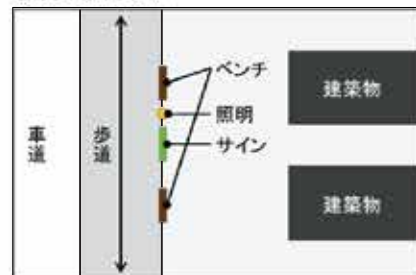
人通りの多いところでは、植栽帯の中などに設置します



街路樹や広告物によって隠れたりしない場所に設置します。



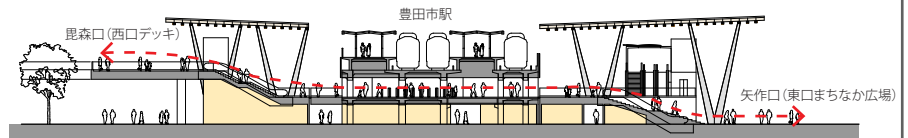
車いす利用者が通行でき、利用しやすいように十分な幅を確保します



照明・ベンチ等と一体的に配置します

「つかいやすさ」 現状、接続位置が細かく分かれ使いにくい上下移動の動線を、大階段として1箇所に集約することで改善します

▶ **上下移動や段差の少ない空間整備**



駅前の動線計画を整理、上下移動が楽になるよう計画します



矢作口から豊田市駅へ上がる大階段



豊田市駅からデッキへ上がる階段

「居心地のよさ」 現状、まちに座れる場所や木陰があまりなく、休憩できる場所が少ないため、まちの各所に緑と、その場に応じたベンチを設置します

▶ **ファニチャー・緑のあり方、考え方**

様々な利用方法を想定したデザインのベンチを用意し、まちなかに設置します

緑を適切に配置し、木陰とベンチのある居心地のよい空間をつくります



まちをつかう取組と方針

とよたの都心では「志ある民間主体による管理運営」や「スモールビジネスの担い手の活躍の場」の実現を目指し、2015年度に「つかう」取組をスタートしました。また今後、これまでの実施方針取組をもとに、「まちなかをつかう」ことを促進していきます。

実施方針

1

「空間」を「居場所」に、
「シビックプライド」を育む



地域のみなさんと協働して「つかう」取組を推進することで、まちが変わる機運を高めていきます。

※シビックプライド：市民が都市に対してもつ自負と愛着

2

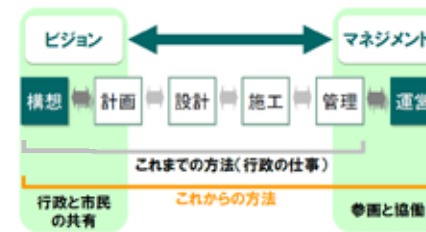
駅前をまちの
情報集約・発信拠点に



今回の都心環境計画の実現を通し、駅前の空間に豊田のオリジナリティや活動を埋め込んでいきます。

3

構想 ⇄ つくる ⇄ 管理する
⇄ つかう、を一気通貫で

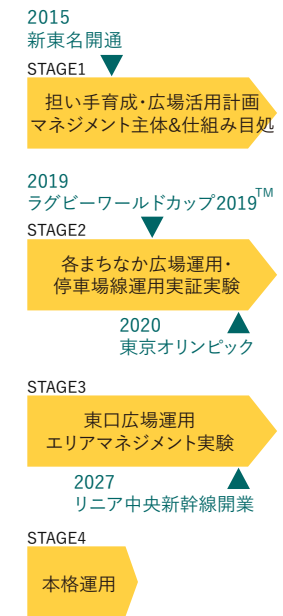


プレイスメイキングの理念や手法を用いて運営主体となる主利用者や企業も各工程での検討に加わり、その結果をプランや整備内容に反映する新しいプロセスを展開していきます。

※プレイスメイキング：愛着や居心地の良さといった心理的価値を持つ場所をつくり出す計画の理念・手法

4

段階的なロードマップ



今後は、段階的なハード整備に合わせた利活用や将来的な公民連携の方針づくりを進めていきます。

これまでの取組、今後の取組

2015年度

まちなかの複数の広場を対象に、志のある民間主体が活躍できる環境づくりにチャレンジしました。

STEP 1

まちの現状分析

(ポテンシャルと課題の把握)

- 1 現状のまちなか空間の利用の視点
- 2 豊田のまちのポテンシャル、市民性の視点
- 3 各エリアの空間的特徴の視点

STEP 2

仮説の設定

- 1 自由と責任の下、空間を自ら使いこなす担い手・アイデアが必要
- 2 段階的な使いこなしと空間整備、使う担い手が「つくる」に関わることが必要
- 3 「つかう」と「つくる」の両輪で計画を推進、市民が関わるプロセスのデザインが必要

STEP 3

まちの皆さんと試行・検証する (あそべるとよたプロジェクト)

- 1 実証実験：
あそべるデッキWEEK / あそべるとよたDAYS
- 2 空間をより使いやすくするための制度改善：
ペDESTリアンデッキ広場
- 3 空間をより使いやすくするための運営体制構築：
あそべるとよた推進協議会
- 4 プロモーション

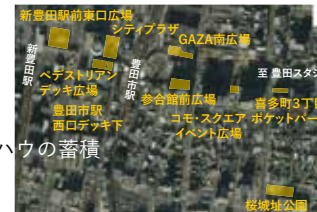
2016年度

2015年度の成果からまちなか広場を4つのタイプに分類しました。そして、各広場の特性にあった活用の仕組みづくりに取り組みました。

TYPE 1

「統一窓口」による広場活用

対象広場： まちなかの全9箇所の広場
目的： 活用の担い手発掘、育成活用ノウハウの蓄積
実施内容： 公共空間の管理者育成



TYPE 2

「収益事業型」の広場活用

対象広場： ペDESTリアンデッキ広場
目的： 半年間の飲食販売&活用コーディネート
実施内容： 広場での事業化可能性の模索と空間の質向上



TYPE 3

「管理者支援型」の広場活用

対象広場： 広場管理者が投資し、積極的な活用を図る広場
目的： 広場管理者の投資への活用支援、自立運営の促進
実施内容： 投資意欲ある管理者が実施する施策への推進支援



TYPE 4

「担い手発掘・育成型」の広場活用

対象広場： 新豊田駅前東口広場
目的： 投資されにくい広場での公益性の高い活用と、使い手を中心とした運営体勢の構築
実施内容： ワーキングチームによる広場のリニューアル



2017年度～

2年間の成果を基に、公民連携による持続可能な広場の運営体制づくりを推進していきます。

「民間」が担う役割

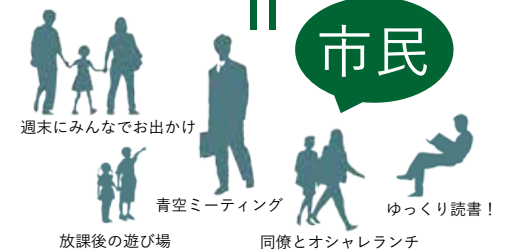
- 1 民間のノウハウと財源によって、行政が整備した施設の特徴を最大限に活かした運営や魅力アップを行っていただけるよう連携を図ります。
- 2 民間オーナーが各施設の地先広場を活用し、空間づくりと積極的な運営によって上げた収益を再投資することで施設・広場・エリアの価値が高まる、という流れが生まれるよう支援します。



「公共」が担う役割

民間への権限委譲と活用の自由度を高める制度設計

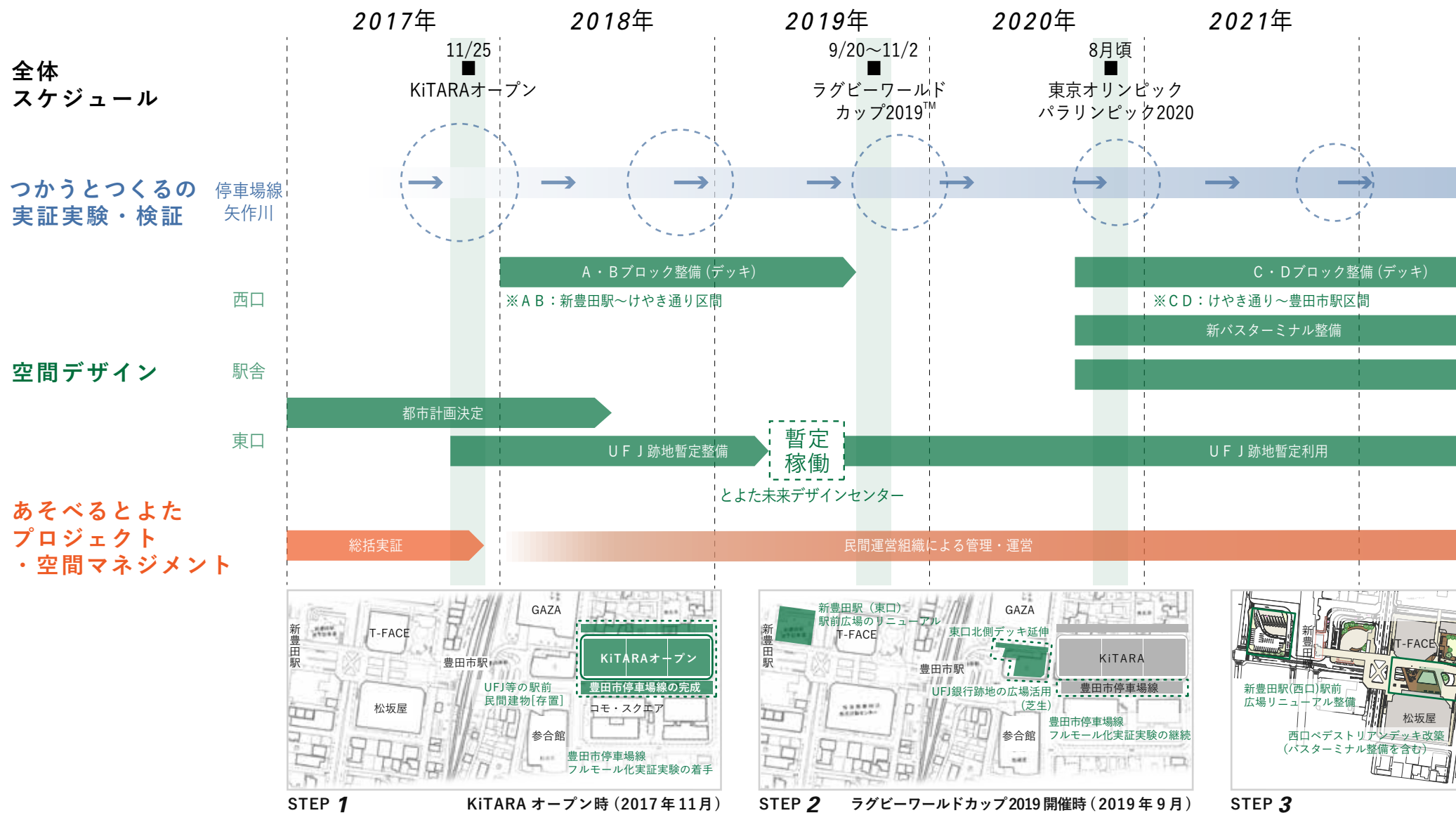
- 1 民間が積極的な活用・運営を目指す部分については、市が行うハード整備内容に反映します。
- 2 イベント等に関わる行政予算を縮小しつつ、民間の自立的活用を促す制度設計や公益性の理念を持った運営主体への権限移譲を促進します。



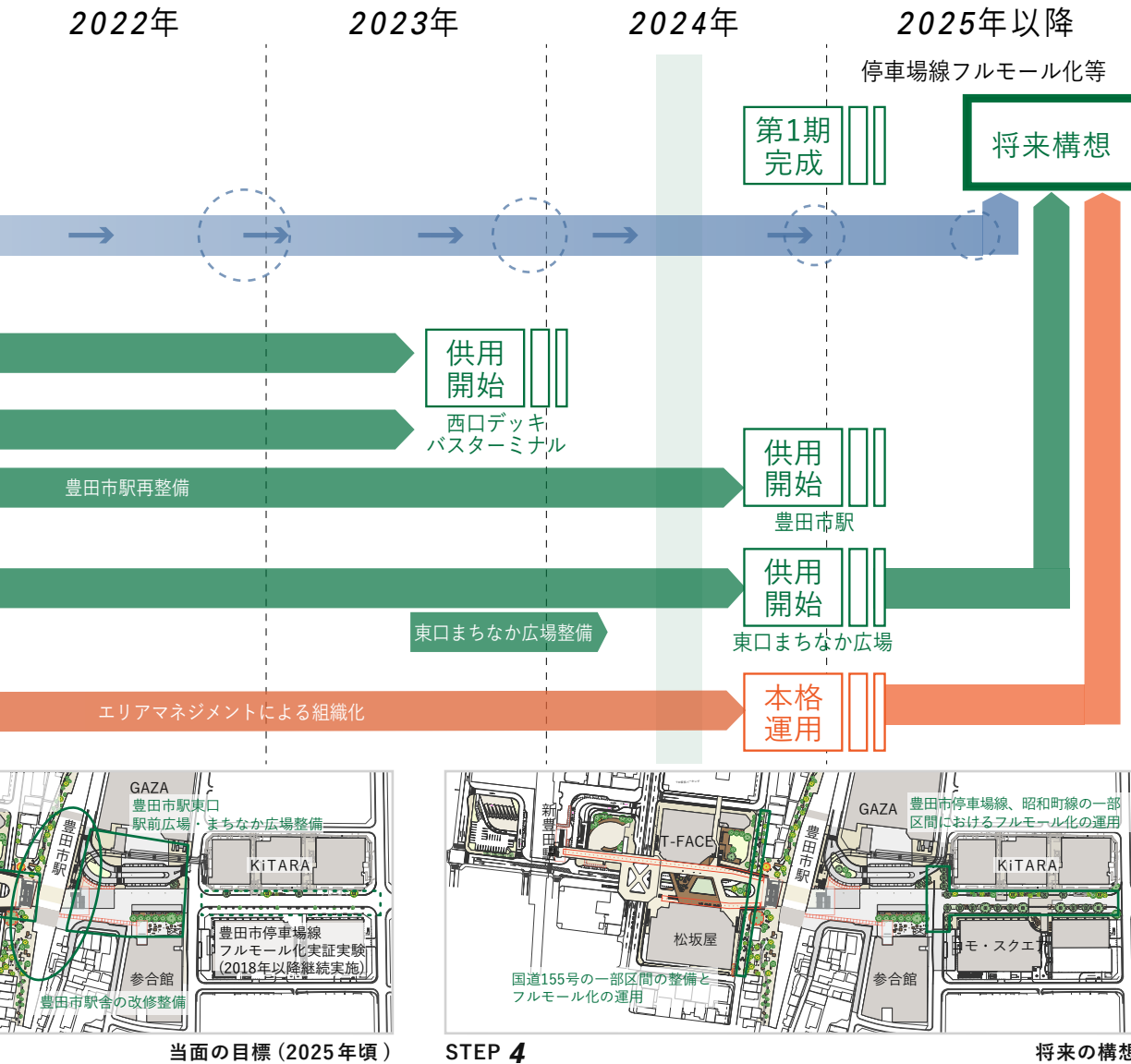
多様な人の「これやりたい！」
が実現できる豊かな都心を実現します。

今後のスケジュールと段階整備（目標）

とよたの都心は今後 12 年間で、段階的に整備されていきます。



※このロードマップは現時点でのスケジュールであり、変更の可能性があります
 ※2025年以降、2027年リニア中央新幹線開業時を目標に引き続き整備は行われます



CHAPTER 4
WORKING SCHEDULE

第4章
ロードマップ

豊田市の駅前空間は、計画期間12年間で段階的に整備されていきます。その整備過程では、ラグビーワールドカップ2019™や東京オリンピックパラリンピック2020、といったビッグイベントやリニア中央新幹線開業などが予定されています。また、Kitaraオープンなど都心においても様々な変化があります。これらのインパクトを見据えながら段階的かつ計画的に、時代やニーズに合わせて再整備を行なっていきます。